

## インタビュー 「奥田弦の世界」を訪ねて

現役中学生にしてプロのジャズ・ピアニスト、作曲家及び編曲家として大注目の奥田弦さんが出演する「奥田弦ジャズワールド」が、6月4日（日）つつじホールで開催されます。

日々進化を続ける15歳の、想いと素顔に迫りました。

—中学生とプロの音楽家の二足の草鞋を履いての多忙な毎日だと思います。一日のスケジュールを教えてください。

**奥田**：16時くらいに学校から帰ってきたらすぐピアノの前に座ります。途中に夕飯の時間をはさんで夜9時くらいまで続けます。その後は勉強をするか遊ぶか。作曲・編曲をして過ごすこともあります。

—ピアノは3歳から始められたとのことですが、何がきっかけでジャズの道に進んだのでしょうか。

**奥田**：最初はクラシック曲を弾いていました。5歳の頃、ビル・エヴァンスのCDを偶然書店で見つけたとき、僕が親にそれを欲しいとねだったみたいなんです。それを家に帰ってから聴いて、「これだ！」と。僕は自由人なので、自分を自由に表現できるジャズにビビッと来たんじゃないかと思います。

—どういったところにジャズの魅力を感じますか。

**奥田**：クラシックというのがよく考えられ洗練された本の朗読だとすれば、ジャズはその場での会話だと思うんです。クラシックみたいに決め打ちをして、それをどれだけ感情をこめて読めるかではなく、その場の空気から生まれる会話、音楽で会話できるということが一番いいのかな。ジャズはセッションする事が多いのですけれども、そこでドラムやベースの人たちと音楽を通じて繋がることができるのが魅力だと思います。

—インタビューを受けている間も堂々とされていますが、舞台上で緊張することはありますか？

**奥田**：緊張はしたことはないですね。緊張してしまうと、会場に緊張した空気が伝わってしまってお客さんに楽しんでもらえないので。緊張感と緊張は違うと思います。自分が楽しめないとお客さんも楽しめないと思います。

---

## 『モーツァルトに負けてられない』

—作曲はいつ頃から始められたのですか。

**奥田**：ジャズを始めたのと同じ、5歳の頃からです。映画「アマデウス」のDVDを借りてきて家で観たとき、モーツァルトに対して勝手にライバル心が芽生えたのがきっかけです。モーツァルトが5歳で作曲を始めたのならば、こっちは負けてられないなと（笑）

—どのように作曲を行っているのでしょうか。

**奥田**：始めた当初はまだドレミファソラシドを覚えてただったので、それを紙に直接書いたり、パソコンを使ったりもしました。

—5歳からパソコンを。

**奥田**：音符の長さや音の高低さえ分かれば、あとは直感的に扱うことができました。現在は「Logic Pro X」というソフトを使って作曲を行っています。パソコンを使っての作曲は、沢山の楽器が入った楽曲を作る時に主に使います。

鍵盤を弾きながらではなく、頭の中で音を鳴らして「これいいな」と思ったものを打ち込むようにしています。もちろん、パソコンを使っての打ち込みだけでなく、アナログな方法で頭の中で音楽を全て作ってから一気に楽譜に書いていくこともあります。3分くらいで作るときもあれば、1ヶ月かけて練るときもあります。



—音楽が浮かぶのはどのようなときですか？

**奥田**：特に決まりはありません。浮かぶときは浮かぶし、浮かばないときは全く浮かばない。例えば国語や英語の授業中にふと浮かぶときもあります。

日常には結構な音が溢れていますから、作ろうと思えばどこにいても作れてしまいます。例えば青信号のときの（視覚障害者向けの）カッコウの鳴き声だったり、そういうところから着想を得て曲を作れちゃったりもします。ある意味、信号機の点滅だって音楽です。音は聞こえないけど、視野的なリズムのヒントになる。

特別な環境に出向く必要はありません。このインタビュー会場にいて作れと言われても、無理なく作れますよ（笑）。

—これまで数多くの作品を手掛けられていますが、作曲の面白さ・やりがいはどういうところにありますか？

**奥田**：演奏の種類によっては、敷かれたレールの上をいかに上手く走れるかを評価されます。作曲の場合はレールを敷くところからできるので、自分の意思を100%表現することができる。そういう意味では、アドリブで演奏することよりも自分のやりたいことを吟味したうえで熟した状態で提供できる。

自分の音楽が他の人によって演奏されるのも嬉しいですね。なかにはアレンジされることを嫌がる作曲家もいるかもしれませんが、個人的にはウェルカムです。より進化させてほしい。そうきたか！ならこれならどうだ？ってどんどん昇華していく音楽は魅力的です。そこには進化がある。

—逆にしんどいな、と思うことはありますか？

**奥田**：なかなかメロディが出てこない作れないときですね。そういうときはバツサリと一回やめて別のことに手をつけます。ピアノを弾いたり、本が好きなので本を読んだり。

---

## 『世界で0.03%しか話せる人がいないことに惹かれた』

—どういう本を読まれるのですか？

**奥田**：最近は小川洋子にはまっています。他に日本の作家だと村上春樹。新作（騎士団長殺し）も買いたいと思って

いましたが売切れてしまって。海外だとスタインベック、ドストエフスキーが好きです。坂口安吾も面白かったし、梶井基次郎も風景的な文章がいい。幅広く読んでるので、国語の先生とは話が合います。逆にライトノベルや漫画なんかはあまり読んだりしない。学校で流行っているのはそっちばかりですけど、友達はなぜかたくさんいます。結局、漫画でも文学でも、本という世界観は何か共通しているのかもしれない。異世界への入り口という部分において。



—他の趣味は？

**奥田**：外国語かな、少し前までは科学も好きでしたが、いまは語学の方が好きです。その時々によってはまるんですよね。昔は元素が大好きだったけど、今はとにかく語学で、英語はもちろん、イタリア語、ドイツ語と、最近はエスペラント語も始めました。

—エスペラント語ですか。

**奥田**：世界で0.03%しか話せる人がいないことに惹かれたのと、品詞によって語尾が必ず決まっていて例外が無いところ。そこが美しいなど。語学は独学です。辞書を買って、本を買って、それでなんとか読んでいます。

—勉強は好きですか？好きな科目はありますか？

**奥田**：勉強というか、雑学が好きです。学校で習う勉強は、興味が湧くものもあるけど基本的には退屈かも(笑)。化学式は好きですが、植物とかは一切興味ない。菌類とか維管束とか、どうでもいいじゃないですか、と(笑)。

好きな科目はやっぱり英語。数学も好きです。全教科、好きなところは好きです。そして興味が無いところは全くないので困ります。だからちっとも優秀じゃない。法律も好きで、いま六法全書を読んでいます。面白いですよ。特に刑法が好きです。ペットボトルに入ってるお茶とかの成分表を見るのも好き。とにかく活字なら大体は好きなんですよね。地理は好きじゃない。ただ、地図記号は好きです。小学校低学年のころに全て覚えました。そして今はすっかりと忘れちゃった！

—スポーツはどうでしょう。

**奥田**：軟弱なイメージのピアニストの割にはできるとは言われます。50mは7.1秒、運動会のリレーの選手もやりました。最近は休み時間に友達と一緒に走っています。ハードル飛びも好きでやっていたりしました。たまにテニスも。だけど、突き指があるのでバスケとかはできません。あと体はめっちゃくちゃ固いです。おじいちゃんみたい。

—話をしていて時折忘れそうになりますが、奥田さんまだ中学生なんですよ。

**奥田**：一応。しっかりものの妹とかには、ちゃんとしなさい！的な感じでいまだに注意をよくされますが、友達には「変人」とよく言われます。変人だけど、一緒にいて飽きないとも。

—引き出しの多いところが友達を惹きつけるのでしょうかね。

**奥田**：変人は変人ですけどね。良い変人になれるように頑張ります(笑)。

## 『全てのアーティストは越すべき対象』



—理想としている音楽家はいますか？

**奥田**：理想というより、越えたい人なら。アートイタムとか。まだ手が届きませんが、いつかは越します。目標は高い方が、いいし、まず見ることだから。見ないと、確実にそこには行けない。もちろん見るだけじゃなく、高ければ高いほど羽を動かす努力をしないと、目的には到達できないのですが。

昔、将来の夢は？と聞かれたら、3歳の頃は「ピアニスト」。小学校の低学年の頃には「世界で一番のピアニスト」。その次には「銀河系一のピアニスト」とか言ったりもしましたが（笑）小さいながら一番遠くの大きなものを言葉にすると、そうなったのだと思います。大きくなったらヒーローになって世界を救う！って言ってるのとあまりかわらないかもしれない。でも、僕は、そんな昔の僕に背を向けたくない、以来その夢を変える気がありません。

音楽のジャンルも関係ありません。最終的には、新しいジャンルを創りたい。一番になるには、誰もがやっていないことをやってしまうのが手っ取り早いと思うので、自分のジャンルを作ってしまうかなと。

今はそのために必要な材料を蓄える時期だと思っていて、そのために色々なことに挑戦しています。例えば、尺八とコラボして、そこで僕が作曲した曲と一緒に演奏するとか。これからも自分の可能性を広げてくれる人とどんどんやっていきたいと思っています。作曲でもピアノの演奏でも、何でも挑戦していきたい。

—好きな言葉はありますか？

**奥田**：論語にある「これを知る者はこれを好む者に如(し)かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如(し)かず。」という一説です。学ぶことは好むものには適わなくて、好むものは楽しむ者には絶対に敵わないという意味ですが、楽しむためにどう工夫ができるか追求しようと考えさせてくれる言葉です。

---

## 『高校生活に不安はありません』

—春から高校に進学されるとのことですが、ご自宅から大分距離があるそうですね。

**奥田**：そうでもないです、片道2時間くらいなので。3時間圏内ならOKだと親にも言ってありました。現在は中学校まで自転車で大体10分～15分かけて通っていますが、これから電車通学になるので通学時間は勉強に充てる、かも（笑）。音楽家は、移動には強いんです。



—高校生活に期待すること、不安なことはありますか。

**奥田**：不安はないです。トラブルがあったらその場で適当に処理すればいいし。高校は当然初めてなので。

—4月からNHK Eテレの「ムジカ・ピッコリーノ」へ出演するにあたり、演技にも注目が集まると思いますが、自信のほどはいかがでしょう。

**奥田**：演技はやったことがないので・・・（苦笑）。昨年2月に「SHOW ル・リアン」に出演したときは、自分の役を自分で演じたので問題なかったのですが、練習はまだあんまりしてないです。苦情がこないように頑張ります。全く畑違いです、だから楽しみだというのがありますが、とにかく頑張ります。

—今回の演奏会でも実施する「あなたも作曲家」というコーナーは、そもそも奥田さんの発案ですか？

**奥田**：そうです。できるだけお客さんの意見を取り入れて、イメージや適当に弾いてもらった音をもとに曲を作っていきます。弾きながら、この次の展開はどうしよう、こうしたら面白そうだなというのをその場でどんどん展開してって、1曲に仕上げる感じ。全てアドリブです。

—北区にいらっしゃるのは何回目ですか？

**奥田**：おそらく初めてだと思います。眺めていて結構綺麗な街だなとは思いますが。東京なのにあまり空気が汚れていない気がします。

—最後に、読者の皆様に向けてメッセージをお願いします。

**奥田**：音楽というのは読んで字のとおり「音を学ぶ」ではなく「音を楽しむ」ものなので、僕の音楽を聴いて楽しんでもらえたら嬉しいです。エンターテインメントとしての音楽を提供できたらと思っています。



---

## **奥田 弦（おくだ げん）** ピアニスト・作曲家・編曲家

2001年生まれ。3歳の時におもちゃのピアノで遊び始め、5歳頃からピアノで熱心に練習するようになり、映画「アマデウス」でモーツァルトが5歳で作曲を始めたことを知ると自身で作曲を始める。ビル・エバンスを聴いたのをきっかけにジャズに傾倒、オスカー・ピーターソンに憧れるようになる。演奏力が話題となり7歳でソロコンサート開催。

2011年10歳でポニーキャニオンより史上最年少CDデビュー。ジャズジャパンアワード受賞。東京ジャズなどの大型ジャズフェスにも出演。

2014年12歳で史上最年少作曲家としてジャスラック登録。同年2ndアルバム『ボナペティ！』発売。番組テーマ曲や烈車戦隊トッキュウジャーなどの挿入歌、キャラクターソング等も提供、北斎展テーマ曲はコンペで選ばれる等作曲家としても好評を博している。

2015年『題名のない音楽会』ピアノ大喜利優勝。キングレコードより学校で習うクラシックをジャズアレンジしたアルバム『奥田弦とゆかいな学校ジャズ・ピアノ』発売。

2016年春「SHOW ル・リアン」(銀河劇場)ではテーマ曲作曲及びピアニストとして出演。更に同年秋の京王音楽

祭では『奥田弦×東京フィル Jazzy Classic』と題しオーケストラ初共演を果たした。奥田の提案するジャジー・クラシックは新たなジャンルのごとく、新たな“風”としてオーケストラ等からも注目され、ジャンルを超え活躍中。

2017年4月よりEテレ「ムジカ・ピッコリーノ」（4月7日(金)17:35スタート（再放送 毎週土曜 午前8:25～））出演。

楽譜の読み方は父親に教わり、ピアノの指導を受けたのは3か月程。ほぼ独習で演奏法を身につけた。

ホームページ <http://www.oto.co.jp/>

◆特別付録「奥田弦、北とぴあを巡る」



正面玄関前



区民プラザ



パイプオルガン



平和祈念像